

- ・深度47.13～47.34mの「灰白色粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度47.34mには暗灰色粘土を挟んでいる。粘土はやや硬質であるが、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

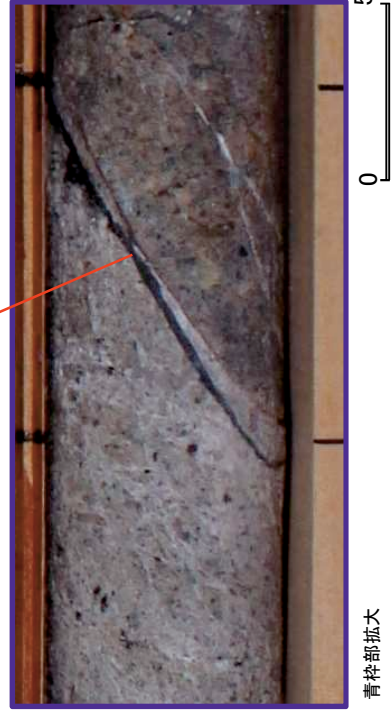
ボーリング柱状図

●47.13～47.34m：破砕部
 灰白色粘土混じり礫状部(Hj)。上端25°、下端60°。網目状粘土が発達する。やや硬質で原岩組織は残留する。下端付近に直線的な幅1～2mm程度の暗灰色粘土を挟む。やや硬質。

コア写真



暗灰色粘土の連続性・直線性が良い



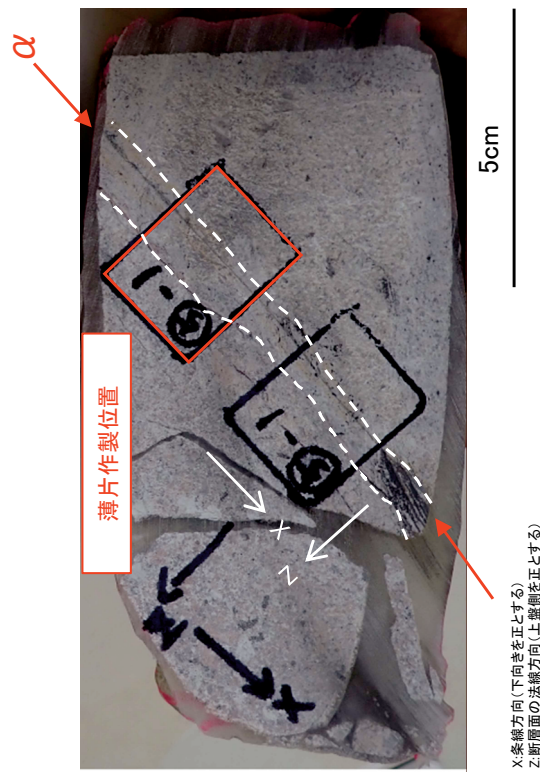
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

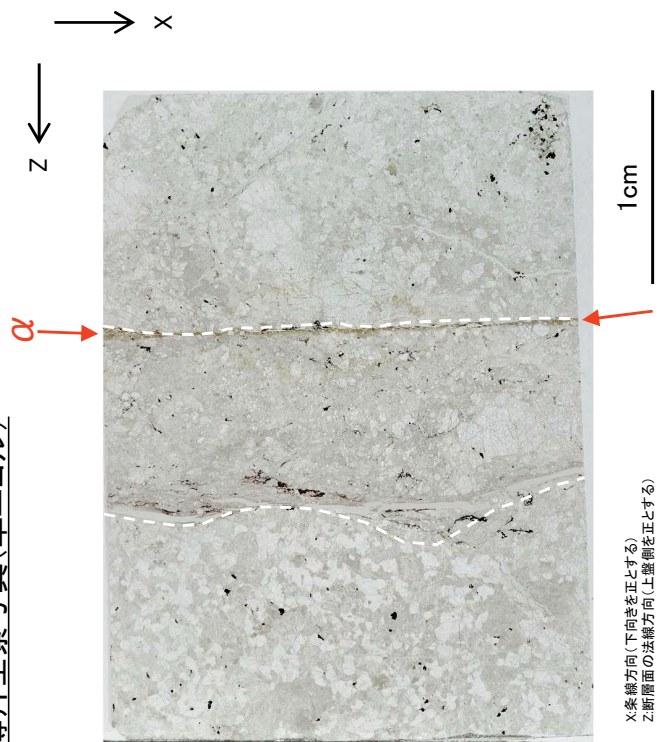
コア写真



薄片作製位置写真

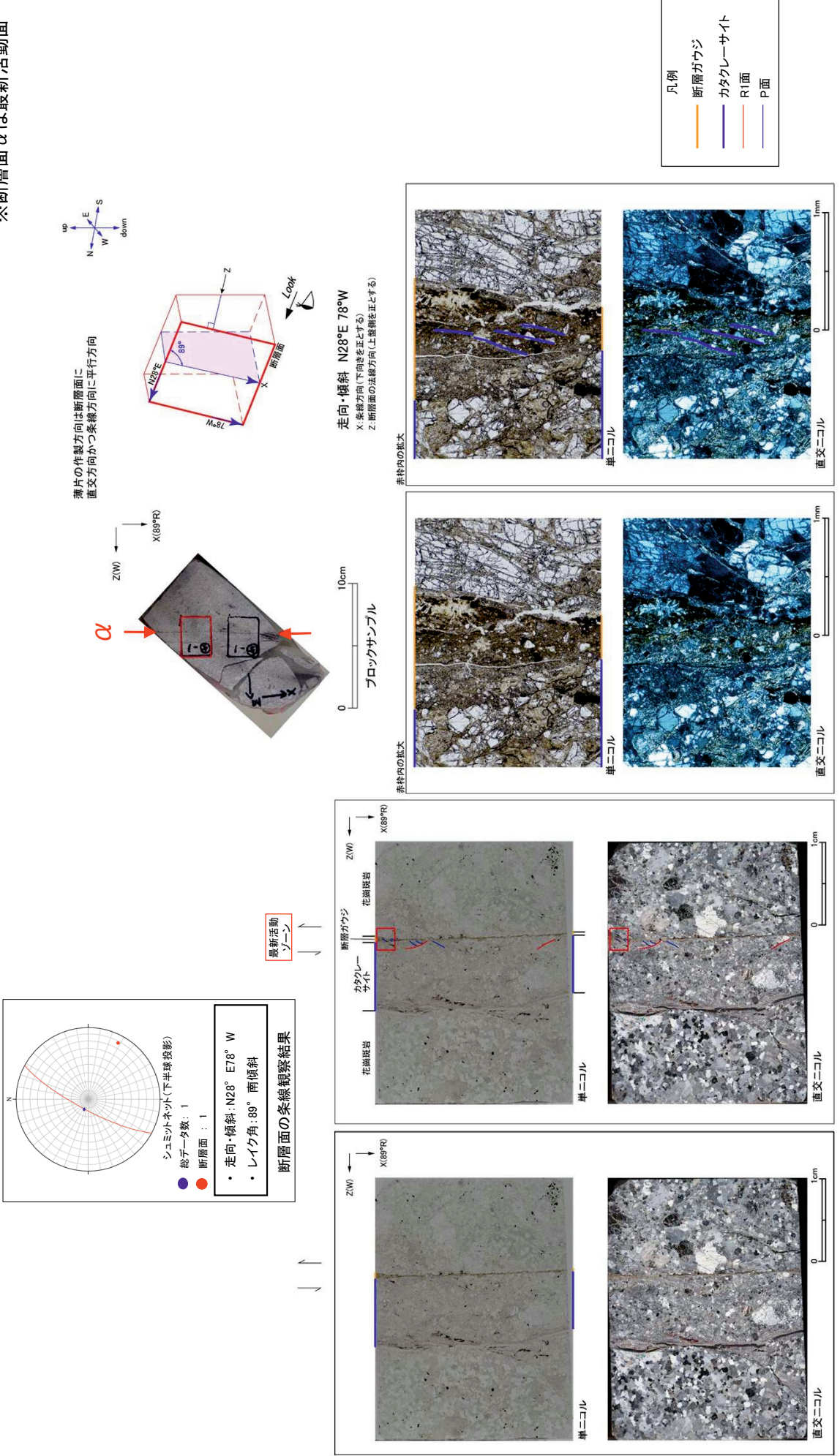


薄片全景写真(単ニコル)



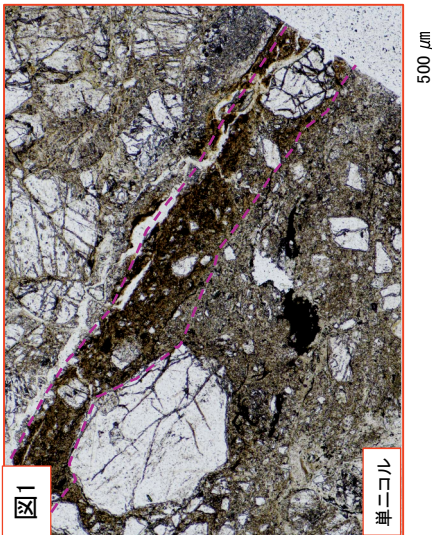
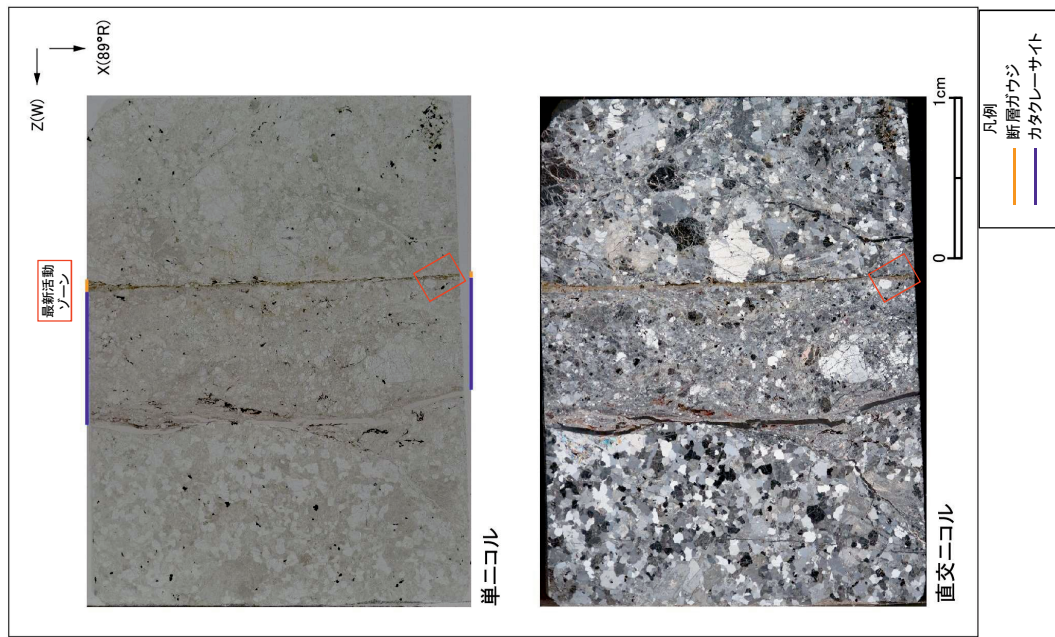
- ・H29-ReB14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面 α は最新活動面

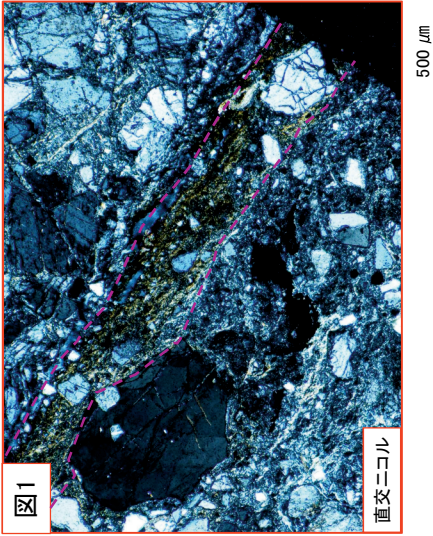


第7.4.4.351図 (3) 破碎部性状 H29-ReB14-2 深度47.13~47.34m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)



破線は粘土状部の分布範囲を示す



(肉眼観察結果 深度47.34m)

- 深度47.34mには暗灰色粘土を挟在している。粘土はやや硬質であるが、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴は認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された暗灰色粘土は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.2	無

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度50.61～50.66mの「細礫混じり粘土～シルト状」と記載の箇所については、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も不明瞭であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

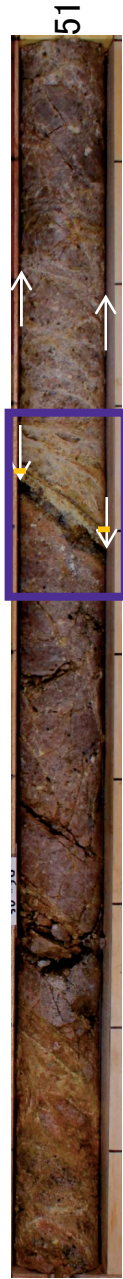
・深度50.62mには暗褐色粘土を挟んでいる。粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度50.66～50.80mの「粘土混じり細片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●50.61～50.80m：破砕部
 50.61～50.66m：幅30mm程度の細礫混じり粘土～シルト状部(Hc-2)。上端35°、下端27°。軟質で原岩組織は不明瞭。50.62mに直線的なフィルム状の暗褐色粘土を挟む。
 50.66～50.80m：淡黄色粘土混じり細片状部(Hj)。下端20°。やや軟質で原岩組織は残留する。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

暗褐色粘土の連続性・直線性が良い



青枠部拡大

0 5 cm

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 α は最新活動面



凡例

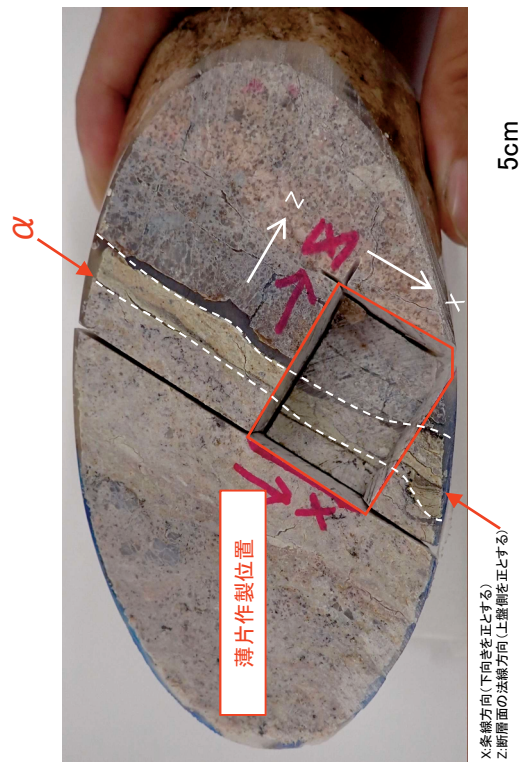
断層ガウジ

断層面

破碎部範囲※

※: 写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



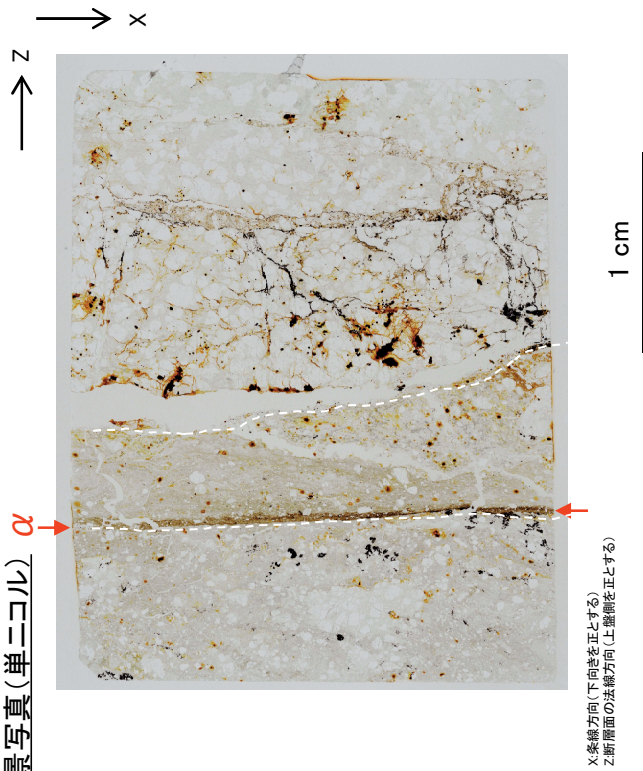
凡例

断層面

肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載

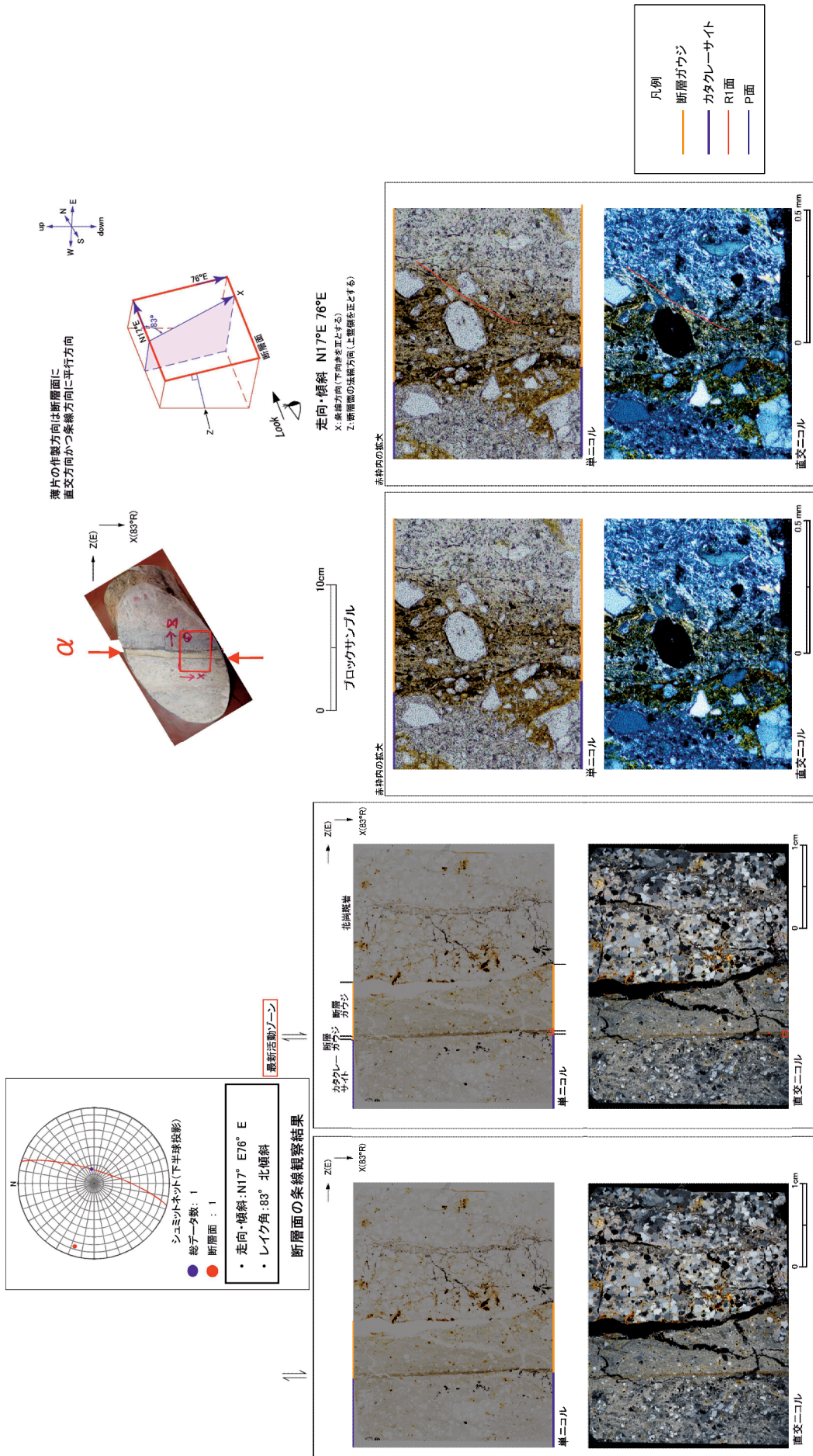
薄片全景写真(単ニコル)



X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

・H29-ReB14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 ➢ (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 ➢ (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 ➢ 岩片は少ない。
 ➢ (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面 α は最新活動面



第7.4.4.352図 (3) 破碎部性状 H29-ReB14-2 深度50.61~50.80m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))